

## 第 384 回 ATIS 例会報告

2016 年 11 月 16 日、川崎市産業振興会館にて、第 384 回 ATIS 例会が行われました。

まず、代表幹事報告にて、会員の入退会状況が説明され、11月16日現在の会員数は41社であり、前回から変動がなかった旨が報告されました。続いて、例会活動・スケジュール、第2回幹事会などの説明、その他として、IPCCからの案内(特許検索競技大会2016フィードバックセミナーについて)、IoTに関するファセット分類記号(ZIT)の新設などが報告されました。

続いて、2つの講演があり、まず、「アセアンの最新の知財状況」と題して、JETRO バンコク事務所知的財産部長の高田元樹様と同事務所知財専門家の澤井容子様からご講演いただきました。

高田知的財産部長より、アセアン主要国の知財概況(特許出願・意匠出願・商標出願の状況)が説明され、続いて新興国・途上国における知財リスク(情報漏洩リスク、契約不備リスク、他者権利侵害リスク、権利(未)取得リスク、法令違反リスク、模倣品リスク)について講演されました。続いて、澤井知財専門家より、東南アジア各国の知財状況を特に、この1年間の動きを具体的にご説明いただき、最後に JETRO バンコク事務所も事務局となって、東南アジア諸国やアセアンに関する知財関連活動を行っている「東南アジア知財ネットワーク(SEAIPJ)」の紹介がありました。

お二人とも駐在という立場から現地に立脚された臨場感のある最新動向を詳しく説明され、有用な情報・知見を得ることが出来、その後の質疑応答では活発な質疑が交わされました。



次に、「研究者から見た自動車の自動運転 ～研究の紹介と実用化に向けた課題の考察～」と題して、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授の大前学様から、これまで取り組んでこられた自動車の自動運転の研究を紹介されながら、自動運転の歴史、研究者の視点から自動運転の課題についてご講演いただきました。

自動運転研究の流れとしては、第 1 期: 路車協調型(50' s~60' s)、第 2 期: 自律型(70' s~80' s)、第 3 期: IVHS/ITS 関連プロジェクト(90' s)、第 4 期: 実用化を目指した技術の検証(2001 年以降)という分類があります。近年、自動運転の潮流の変化があり、現在、日本では政府による成長戦略への盛り込み、さらに 2020 年の東京オリンピック開催を背景に「世界一安全な道路交通の社会の実現」をすべく自動運転の実用化に向けた取り組みが加速しています。

実現を目指している自動運転の特徴と課題について、① 自動運転のヒューマンインターフェース、②自律自動運転車の大量普及、③安全と社会受容性という切り口から、様々な実験結果をビデオにて紹介されたり、交通流のシミュレーションを視覚的に分かり易く示されました。さらに費用対効果の問題、あるいは現在の技術での限界の存在、研究課題などが紹介されました。

今後、実用化が社会に広く受け入れられるためには、①使って楽しい(安全維持が楽しくなる)、②大量普及して交通流を改善する、③安くて誰でも使える、④安全効果が目に見えて分かる ことが重要であり、自動運転社会の実現に繋げていきたいとの決意が表明されました。最後に雑感として、タイヤの例を用いた「自動運転と非制御技術」のアナロジーから、今後の研究課題、目指すべき方向性などについて紹介がありました。

全体を通して本音ベースの様々な知見を含めたざっくばらんなお話をされ、また具体的なビデオの紹介、ビジュアルで分かり易いシミュレーションも交えて非常に興味深い講演をいただき、その後の質疑応答では活発な質疑が行われました。



以上